

Project	地域協働専攻 地域環境科学グループ
	<b>函館山自然環境保全プロジェクト</b>

メンバー	[学生] 筒井 裕世/棧 春樹/荒 洸太郎/山本 晟周/朝倉 康太/佐藤 亜美 [担当教員] 村上 健太郎
------	----------------------------------------------------------

**【背景】**

1. 全国・全世界的に、人間の諸活動により、自然環境が破壊されるなどの問題が生じている。
2. 函館山は恵まれた自然環境をもつ一方、観光業・レクリエーションとも密接な関係がある。
3. 函館山についての学修を進める中で、函館山の自然環境が抱える問題がないか興味を抱いた。

**【目的】**

- ・函館山の自然の豊かさを踏まえて、函館山で生じている環境問題について学び、何らかの自然環境保全活動を行う。
- ・函館山で行われている自然環境保全活動の内容に対して、その関心度や認知度に関するアンケートを行い、函館山の環境問題の改善に向けた対策や活動を考察する。

**【概要】**

函館山の環境保全につながる活動として、函館山にて外来種駆除や切取・盗掘防止のチラシを配布した(前期)。また、北海道教育大学函館校内で学生に対してアンケート調査を実施し、集計・分析を行い、函館山の環境保全につながる対策や活動を考察した(後期)。

**【プロセスと成果】**



写真 1.  
フィールドワークで外来種「シラホシムグラ」を駆除している様子



写真 2.  
函館山ふれあいセンターが実施したチラシ配布に参加したときの様子(函館山登山道入り口で実施)

前期は、函館山について自主的に学修を進めるとともに、函館山にて現地調査を行った。また、函館山ふれあいセンター(函館市住宅都市施設公社)の協力を得て、同施設職員の山口涼子氏とのオンラインミーティングを実施し、函館山で現在生じている様々な環境問題について学修した。

6月に実施した函館山でのフィールドワークでは、実際に問題となっている踏圧の様子(登山客の多くが林床を踏むことによって植物の生育が阻害される)や野生植物が切り取られた箇所を確認した。また、ふれあいセンターの活動の一環として、外来種であるシラホシムグラ(アカネ科)の駆除活動を行った(写真1)。更に7月には同センターが実施した「野生植物の盗掘・切り取り撲滅キャンペーン」でのチラシ配布に参加した(写真2)。このチラシ配布には3日間参加させていただき、その様子は函館新聞にも掲載された。これらの活動を通して、野生植物と人との関係に関する問題について認識し、市民への注意喚起の必要性を感じた。

後期は、前期の活動を踏まえ、アンケートやパワーポイントを作成し、北海道教育大学函館校の学生に対してプレゼン発表(函館山で起こっている外来植物等の環境問題に関する内容)と函館山の環境問題に対する意識度調査を実施した。大学の講義内でプレゼン発表を行った後、Google Formを用いてアンケートに回答してもらった。授業時間内という制約があったため、多くの設問は選択式によった。質問内容は「回答者の所属

する専攻・グループ」、「函館山への登山経験の有無」、「プレゼン前後での関心度の変化」、「函館山の環境問題改善に向け必要だと考えられる取り組み」などである。回答者は計 124 名であった。アンケート結果の一部を図 1～3 に示した。学生が所属しているグループ別に見た関心度の割合では、より関心度が高い 4、5 を選択している生徒の割合は地域環境科学グループが最も高いことが分かった(図 1)。また、登山経験の有無別に見た関心度の割合を見ると、登山経験がある学生の方が、関心度が高いことがわかった(図 2)。授業で環境問題に触れる機会が多い地域環境科学グループや登山経験がある学生の関心度が比較的高かったことから、学校教育や観光施設などで函館山について「見る・体験する」機会を増やすことでより多くの人の関心度を高めることができるのではないかと考えられた。一方、出身地別に見た関心度の割合を見ると、北海道外よりも北海道出身、函館出身の学生の方が、見かけ上、やや関心度が高い傾向が見られたが、出身地によって関心度の差に大きな違いが生じるようなことはなかった(図 3)。特に函館市出身の学生の関心度が際立って高いわけではないので、まずは函館市民の関心度を高めるような広報活動を行うなど、改善を行う必要があるのではないかと考えられた。

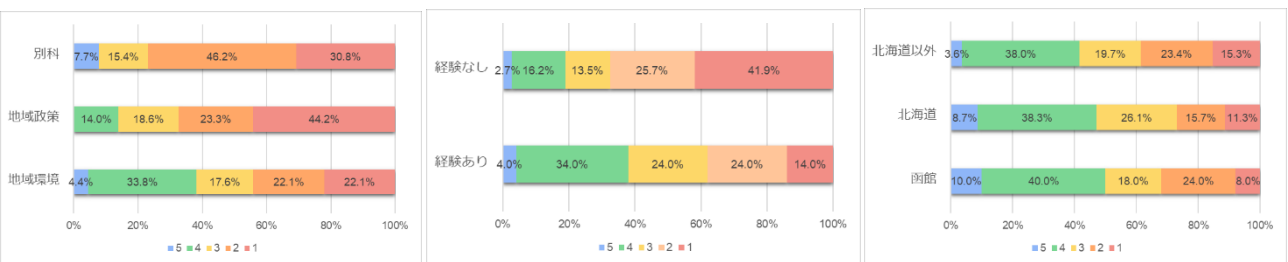


図 1. 学生が所属しているグループ別に見た関心度の割合

図 2. 登山経験の有無別に見た関心度の割合

図 3. 出身地別に見た関心度の割合

**【総括と反省・今後の課題】**

函館山での外来種駆除活動や函館市住宅都市施設公社が実施した「野生植物の盗掘・切り取り撲滅キャンペーン」のチラシ配布といった函館山の自然環境に関する活動に携わる中で、実際に起こっている環境問題の現状や自然環境保全活動の必要性を知ることができた。後期には函館山の環境問題を元にしたアンケート調査を行い、実際に学生がどれほど函館山の環境問題を認知しているのか、関心があるのかを調査した。後期の活動計画は、当初の予定通りには実行できず、苦勞する場面が多かった。活動の反省として、活動計画の内容が実行可能なものなのか、いつから動き出すかなど、細部まで考慮した上で活動計画を練るべきであったことが挙げられる。また、アンケート調査は学内のみで行ったため、アンケートを学外でも実施することが必要であると考えられた。アンケートの選択項目の工夫次第で新たな発見が得られた可能性もある。アンケートで得られた結果を元に、函館山の環境保全につながる新たな活動を練ることができるかもしれないと考えられたが、これらについては今後の課題としたい。

**【地域からの評価】**

今年度の活動やアンケート結果についてまとめたプレゼン動画を函館市住宅都市施設公社の山口涼子氏に視聴していただき、以下のコメントをいただいた。  
 ・とても分かりやすい発表、ありがとうございました。  
 駆除活動やチラシ配布活動では、前向きに活動していただいたのでとても感謝しております。後期の活動についてご相談していただいた際に、函館山を取り巻く情勢の変化もあって、皆さんにこれといった提案ができず、申し訳なく思っていました。皆さんに取っていただいたアンケート結果を今後の活動の参考にさせていただきます。ありがとうございました。

**【年間スケジュール】**

- 前期
  - 5月: 文献調査、フィールドワーク準備
  - 6～7月: フィールドワーク(外来種駆除、切取・盗掘防止のチラシ配布)
- 後期
  - 10～12月: アンケート作成・実施・集計・分析
  - 1月: まとめ作業

**【謝辞】**

函館市住宅都市施設公社及び函館市役所の皆様には活動に際し、全面的なご協力を賜りました。ここに記して感謝の意を表します。

